



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

地方分権化のもとでの教育課程行政の変容： 東京都を事例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金子,真理子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/107303

地方分権化のもとでの教育課程行政の変容

—— 東京都を事例として ——

Changes of Curriculum Administration in Decentralization

; A Case Study of Tokyo

金子 真理子*

Mariko KANEKO

教員養成カリキュラム開発研究センター

Abstract

The purpose of this paper is to analyze the recent style of supervision of municipal educational administration for schools in recent decentralization. In 2002, I interviewed teacher's consultants of seven municipal boards of education, principals and teachers of elementary schools in Tokyo. In so doing, I bring up the following points as the characteristics of the recent municipal administrative supervision style.

- 1) A good deal of administration of affairs about supervision of curriculum has been transferred from the Tokyo city board of education to municipal boards of education in recent decentralization.
- 2) In such trends, municipal boards of education contacts schools frequently more than before.
- 3) Municipal boards of education supervise closely that each school achieves number of classes because such things can be seen from outside. In other software side such as educational activities in each school, they do many kinds of things not to show top-down approach. But, some boards of education control schools under their supervision through budget allocation instead of visible top-down instructions and orders.

Issues which remain to be seen are followings.

- 1) We have to find how the supervision style of each local municipal educational administration has been changed by now.
- 2) We need to investigate such recent supervision styles secure how wide discretion and flexibility to each school.

Key words: the supervision style of municipal educational administration for school, decentralization, discretion of schools

Curriculum Center for Teachers, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨: 本稿では、近年変わりつつある教育委員会と学校の関係に焦点をあて、学校に対する指導行政の今日的スタイルについて明らかにすることを目的とする。主なデータは、東京都内の7つの区市の教育委員会と、その管轄下の小学校の管理職・教務主任に対して、2002年7月から9月にかけて実施したインタビュー調査および文書資料である。2002年度は、現行の小・中学校学習指導要領が全面実施になった年である。当時、教育委員会が学校に対していかなる指導行政を行っていたのか、「時代のスナップショット」としての記述・検討は、新たに学習指導要領の改

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

訂を受けた今、急務である。

地方分権化の政策動向のなかで、地教行法の第59条が撤廃され、教育課程等に関する事務の多くが、東京都教育委員会から区市町村教育委員会へと移管された。2節と3節では、こうした動向の中で、教育課程行政を通して、各市区教育委員会と学校の間で相互交渉が拡大していること、その一方で、方法や戦略の上での多様性が地域間で生じていることを確認した。さらに4節では、学校に対する指導行政の今日的なスタイルについて、市区教育委員会の間の多様性を踏まえつつ、考察を加えた。まず、ほとんどの市区教育委員会は、外部から見えやすい授業時数確保等については、「強い姿勢」で指導に臨んでいる。一方、具体的な教育活動にかかわるソフトウェア面については、少なくとも完全には「トップダウン」には見られないような指導戦略がとられる傾向がある。もうひとつ、ある教育委員会に特徴的にあらわれてきた指導スタイルは、予算配分を通じた指導であり、これは、あからさまなトップダウン型の指示・命令が全く必要なくなるほど、学校に対して「常時働く統制力」になっている可能性がある。

本稿は、教育課程行政における地方分権化の過渡的状況を、東京という特殊な地域の事例に基づき、記述した段階にすぎない。今後の課題は、第一に、教育課程行政のスタイルが、各地域でどのように変化し定着しつつあるのかを見極めることである。第二に、近年見られる指導スタイルが、学校の裁量権をどこまで担保する仕組みになっているのかという視点から精査することである。

キーワード:教育課程行政の変容、地方分権化、学校の裁量権